

第 33 回 新紙幣に思うこと

今年 7 月 3 日に発行された新紙幣について、思うことを書いてみたいと思います。

デジタル時代の到来によりキャッシュレスの社会が進んでいますが、新たに新紙幣が発行されました。千円札は北里柴三郎、5 千円札は津田梅子、一万円札は渋沢栄一といった人物です。私が物心ついたときには、まだ 500 円がお札で、岩倉具視が印字され、全体に青みがかかっている色の紙幣だったのを覚えています。貨幣は子どもの、お札は大人の持ち物だと幼心に思い、お札に憧れていました。

新一万円札の渋沢栄一は、「日本資本主義の父」と称され、その歩みと思想は不安定な現代にも通じる示唆に富む人物です。あの栗山英樹氏も、渋沢の講演集「論語と算盤」を大谷翔平選手など多くの選手に渡し、相反するように思われる「道徳と経済」の両方を求めてこそ、事業は長続きするという思想を持ち、まっすぐに生きることを伝えたといえます。「常識や先入観を捨て、できるかできないかという発想ではなく、やるかやらないか」「理想を追い求めなければ生まれてこないものがある」と栗山英樹氏もおっしゃっています。まちづくりの根幹にも、この思想を据えたいと思います。